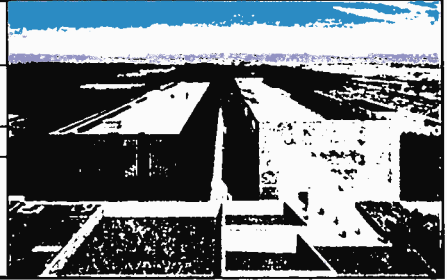


CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	国立国会図書館関西館新館(仮称)	階数	地上7F/地下1F
建設地	京都府相楽郡精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域(特別用途地区)、防火	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019/06/15 予定	評価の実施日	2015/12/18
敷地面積	82,659 m ²	作成者	三野
建築面積	4,645 m ²	確認日	2015/12/18
延床面積	24,966 m ²	確認者	〇〇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 77% (35 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 76% (35 kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+: 76% (35 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	1.7
温熱環境	3.8
光・視環境	2.6
空気質環境	4.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	1.6
耐用性	3.4
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	2.5

LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.5
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	3.5
地域環境	2.9
周辺環境	3.4

3 設計上の配慮事項

設計	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊細で重厚感のある意匠とすることで既存本館との対比的調和を図る。 ・ 低層張出し部分の屋上を緑化することで既存共用部からの眺望に緑の潤いを与える。 ・ 将来的な段階整備を見据え、隠蔽部となる雨側壁面はコストバランスと景観に配慮した材料とする。 	0
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書庫内を室温22℃(±2℃)/湿度55%(±5%)を制御目標とし、適正な保存環境とする。 ・ F☆☆☆☆の建材を積極的に使用。 ・ 高効率照明器具、人感センサー制御、明るさ制御等の 	
<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存本館との関係を考慮したゾーニング計画とし明快な貸与区画が形成できる計画とする。 ・ 日常のメンテナンスや将来の更新を見込んだ設備スペースや搬入ルートを確保する。 	
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外断熱、クールビットを利用し空調エネルギーの削減が可能となっている。 	
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水再利用設備を導入することで省資源化を図る。 	
<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存本館より高さを低く抑え、開口を小さくすることで従属的な関係として計画する。 ・ エントランス正面の景観に配慮し、ガラス壁面で構成することによって視認性に配慮する。 ・ 造成により建物ボリュームを抑え、周辺への日影の影響が最小限になるようにする。 	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される